

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 弘前大学教職大学院主催 青森県教育委員会共催
コラボ研修プログラム	事業名： NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業
支援事業報告書	研修等名：【NITS・弘前大学教職大学院コラボ研修】 令和4年度指導主事研修会
	開催日時：令和4年7月9日 9時50分～16時 開催場所：弘前大学教育学部中教室（青森県弘前市文京町1番地） 八戸ユートリー第4研修室（青森県八戸市一番町1丁目9-22） 参加人数（総数）と参加者の属性：教育委員会指導主事 40人

内容：開会あいさつ 弘前大学大学院教育研究科長 福島裕敏

協議：事前アンケートに基づく課題意識の共有

ファシリテーション 弘前大学教職大学院 教授 天坂 文隆

講義・ワークショップ：「学校現場にどう助言し関わるか」

弘前大学教職大学院 教授 中野 博之

指導主事になりたての時期を想定し、現場にどう助言したらいいのか、

授業の見取りと具体的な助言の在り方についての講義と演習

(昼休憩)

講義「学校現場とともに歩む指導主事として」

弘前大学附属中学校 校長 伊藤 隆

講師自身の豊富な指導主事経験を踏まえた講義

グループ協議 テーマ①「指導主事としての役割とどう向き合うか」

テーマ②「現場での経験で培った強みをどう活かすか」

テーマ③「指導主事という役割の可能性」

(学校訪問、研修企画、事業企画を通して) ①②③について活発な協議

全体協議 各グループからの報告を受けて、全体で協議



成果：参加者アンケートの自由記述から【自由記述】

- ・事前アンケート結果から始まり、自分と同じ悩みを持つ方々がいらっしゃることを知ることができたことにより、大きな納得とともにこの職務を受け入れることができそうと感ずることができた。
- ・悩みの共有ができたことがよかったです。特に、指導助言に関しては、何年経験しても悩みどころだという点も分かりました。だからこそ、指導要領等の資料を理解し、現場の先生方や子どもたちに学びながら、ニーズに即した助言ができるようになりたいと思います。
- ・不安や悩み、これからの業務に向けて等、様々な意見を指導主事の先生方と交わすことができ、とても楽しかったです。アイデアもいただけたので、これからは活かしたいと思います。
- ・指導主事の役割や事業実施の考え方など経験のある指導主事から円滑な情報提供がされ、ICTなどの事業ベースでは類似の事業でもそれぞれの所属で異なる課題があると気づかされた。情報共有するだけでも安心する場面や担当事業の具体的な改善点を想起することもできた。
- ・様々な立場の方が集まり、協議をすることで、多くの視点から仕事や業務を見つめ直すことができました。

令和4年度指導主事研修会「仕事への意識」の変化に関するt検定の結果

n=22 df=21

	事前		事後		t値
	平均	SD	平均	SD	
私は自分の仕事にどのように取り組んでいけばいいかイメージを持っている	4.18	1.10	4.77	0.97	3.775 **
私の日常の仕事の大半は、それほど重要なものではない	2.14	1.08	1.82	1.01	1.433
仕事の見通しや計画を立てるのが楽しい	3.68	1.46	4.18	1.22	2.128 *
今後の自分のキャリアに漠然とした不安を感じる	3.50	1.71	3.23	1.30	1.000
指導主事というキャリアに満足している	4.18	1.36	4.68	1.09	2.925 **
仕事に押しつぶされそうな気持ちになる	3.64	1.56	3.41	1.47	1.045
日々の仕事に充実感を覚えている	4.05	1.25	4.86	0.83	4.500 ***
早く学校現場に戻りたいと思っている	4.18	1.10	4.05	1.32	0.617
現在の仕事に対する意欲(10段階)	7.50	1.79	8.23	1.57	2.460 *

*p < .05 **p < .01 ***p < .001

【事前・事後の意識の変容】

仕事やキャリアについての肯定的な意識が高まっていることが、事前・事後アンケートの平均の変化から、統計的にも確認された。

アイデアや工夫したこと： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

- ① 県内 2 会場を、オンラインで結び、広い県内から参加しやすい環境をつくる。
- ② リラックスした雰囲気、自由な意見交流が可能な環境を醸成する。
- ③ 事前アンケートを基にした課題提起を行い、率直な意見を出しやすい協議の場を設定する。
2 会場のそれぞれから講師が講義したり、互いの会場の情報を共有したりするなど、いずれの会場でも参加者が満足できるように意識した運営を行った。

<写真・図など>

教育研究科長による開会あいさつ（弘前会場）



八戸会場からの午前の講義



活発な午後の協議



事前アンケートを踏まえた課題共有



午前の講義をオンラインで聞く弘前会場



自らの経験と思いを語る参加者

